
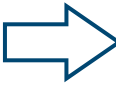


外為ウィークリービュー I 北米編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/06/13

米国の豊富な経済イベントを手掛かりに

通貨ペア	基調		ページ数
ドル/円		80円前後での足場固めが続く？	2-4
		予想レンジ: 79.00 ~ 82.00 円	
カナダ/円		株価・資源価格睨みの展開に	5-6
		予想レンジ: 81.00 ~ 84.00 円	
経済指標 カレンダー	一週間の予定を一覧で表示		7-8

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD/JPY

ドル/円 6/6~10の主な推移

※4時間足



6/6 Monday	朝方、仲値公示に向けたドル買いの思惑から80.39円まで上昇した。しかし、独政府報道官が「ギリシャに2回目の救済があるかどうかや、その条件については明確でない」との見解を示し、ユーロ/円が下落すると、ドル/円は79.97円まで連れ安となった(①)。
6/7 Tuesday	日経平均の上昇に伴い、クロス円(ユーロ/円、豪ドル/円など)が上昇すると、ドル/円も連れて80.33円まで上昇した。しかし、80.30円台では上値が重く推移。NY市場で全般的にドル売りが強まるとドル/円でもドル売りが優勢となった上、米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長が「米経済は潜在成長を大幅に下回っており、緩和的な金融政策は依然として必要」「FRBはインフレを抑制するために必要なことを行う」「現在のインフレの上昇は一時的なものと予想」「経済は予想よりもいくらか減速しているが、今年の後半には持ち直す」と予想」「多くの指標はここ数カ月で労働市場の勢いがいくらか失われていることを示唆している」などと発言。インフレ懸念を一時的なものとする一方、緩和的な金融政策の必要性を指摘する発言内容だったことで、ドル売りが進み、ドル/円は79.97円と前日の安値に面合わせした(②)。
6/8 Wednesday	仲値公示に向けたドル買いの思惑などからドル/円は80.28円まで上昇したが、その後にもまとまった規模のドル売り・円買い注文が持ち込まれたことをきっかけに、ストップロス巻き込みながら80円を割り込むなど急落。午後に入って一旦80円台に切り返す場面も見られたが、夕方にNYダウ先物が下げ幅を拡大する展開になり、クロス円が値を下げると、ドル/円は再び79.69円まで下げた(③)。なお、27時に米地区連銀経済報告(ベージュブック)が発表されたが、「全般的に拡大が続きダラスは加速したが、NY、フィラデルフィアなどの4地区は減速」と前回より弱い内容であるものの、市場の想定内の内容に留まったため、相場が目立った反応はなかった。
6/9 Thursday	東京市場序盤、仲値公示に向けたドル買い需要についての思惑や、NYダウ先物や原油先物の上昇を受けたクロス円の上昇を背景に、ドル/円は80.30円まで値を上げた。しかし、この水準では上値が重く、NY市場前半まで79.90円台から80.20円台のレンジで推移。ただ、26時に行われた米30年債入札が低調だったことを受けて米国債利回りが大幅に上昇すると、ドル/円では80.42円までドル高が進んだ(④)。なお、21時30分発表の米新規失業保険申請件数は42.7万件(市場予想:41.9万件)、米4月貿易収支は437億ドルの赤字(同:488億ドルの赤字)と、マチマチの結果となり、相場の反応は限定的だった。
6/10 Friday	朝方、仲値公示に向けたドル買いの思惑を背景に80.42円まで上昇するも、上値は伸びず、その後は円が買い戻される流れになった。ただし、80円割れの水準では底堅く、NY市場で株安・原油安を背景にリスク回避ムードが広がり、全般的にドルが買われると、ドル/円でもドル買い優勢となった(⑤)。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

USD / JPY

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米政策金利の早期引き上げ観測
- ・米長期金利の上昇
- ・米金融緩和策の巻き戻し観測
- ・日本の財政悪化懸念
- ・日銀による追加金融緩和への期待
- ・(本邦およびG7による)円売り介入

下落要因(ドル安・円高)

- ・米超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の低下
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・米追加金融緩和観測の台頭

今週の見通し

今週の米国では14日以降、重要指標が連日発表される。14日には5月生産者物価指数や5月小売売上高、15日には5月消費者物価指数、6月ニューヨーク連銀製造業景気指数、4月対米証券投資、5月鉱工業生産、16日には週次の新規失業保険申請件数に5月の住宅着工件数及び5月建設許可件数、6月フィラデルフィア連銀景況指数、17日には6月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値および5月景気先行指数と、指標の種類も多岐にわたっている。また、13日にはロックハート・アトランタ連銀総裁、14日にはフィッシャー・ダラス連銀総裁および米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長の講演が予定されている。米金融政策については、「当面は引き締めも緩和もなさそうだ」というところに市場の見方は落ち着いてはいるが、経済指標および要人発言のそれぞれの内容を確認しつつ、方向感を探る展開になるだろう。米国経済の堅調さを示す内容の経済指標や発言にはドル高、米国経済の弱さを示唆する指標結果や発言にはドル売りで反応しよう。先週もみ合ったレンジ(79.69~80.42円)の上限および下限を突破すれば、相場に方向感が出てくる公算だ。

ただ、先週のドル/円相場を振り返ると、80円割れの水準ではかなり底堅く推移しており、かつ80円台で引けている。今週のドル/円相場は、上記の手掛かり材料次第ではあるものの、基本的には80.00円前後で足場を固めつつも、上昇のタイミングを計る展開になるとみている。(ジェルベズ)

(予想レンジ:79.00~82.00円)

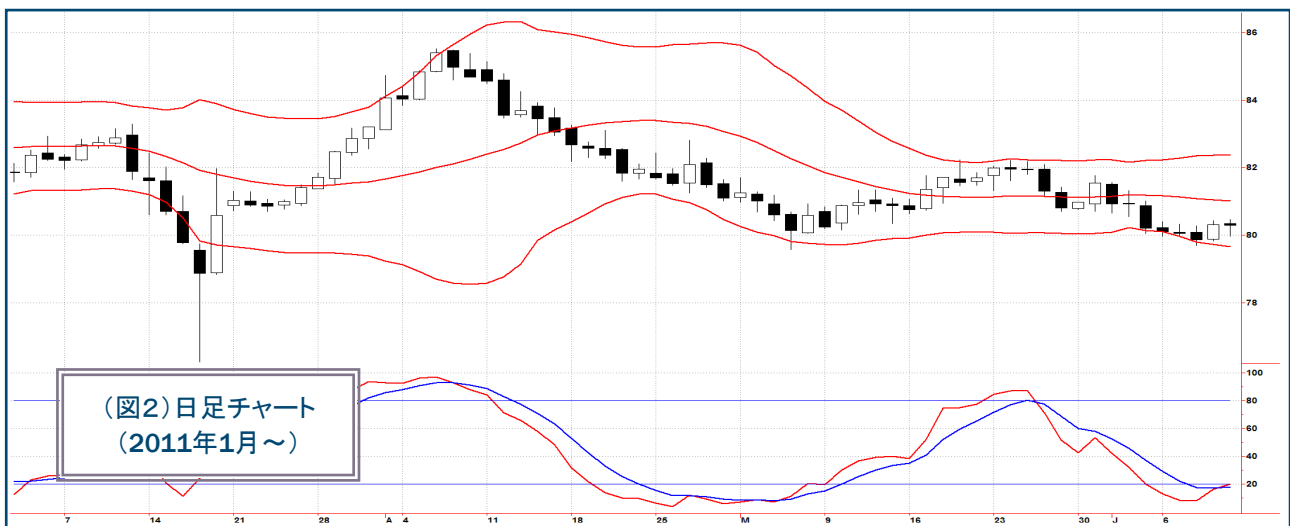
USD/JPY

テクニカル分析

●ドル/円 6/10週足引値:80.29円(移動平均、ボリンジャーバンドから見た相場展開)

先週は、高値80.46円～安値79.69円と77銭のとても狭い値幅の一週間となった。

先週は80円台前半で取引が始まり、79.69円の安値を6/08に見たが、その水準では下値が堅く定着せず、そこからドル反発上昇し、80.46円高値を見た。週末引値80.29円は、20日線(81.01円、6/10)40日線(81.18円、6/10)、60日線(81.81円、6/10)、200日線(82.44円、6/10)を下回っている。日足チャート上部のボリンジャーバンド(6/10時点)は上限:82.37円～下限:79.64円であり、バンドの上限はやや上昇、下限は下向きになっており、バンド幅は少し拡大している。週足チャート(図1):先週は下ヒゲの出た小さな陽線だが、先々週の引値(80.21円)と、そう大きく変わっていない位置にある。今週はこれを受けて若干戻り上昇するのかもしれないが、上値は自ずと限界的だと思われる。日足チャート(図2):先週は下値トライを見たが、中途半端なところで止まり、折り返しの上昇となった。先週の下値トライが「大きく下を売り込んでの下落」という感が全然ないので、ここから反転上昇しても知れていると思う。5月下旬以降、80円台後半～81円台前半を買ってそのままになっているポジションがまだ市場に残存しているので、そのポジションとのぶつかり合いでここから上昇するにもし切れないのでとは考える。5日線(80.12円、6/10時点)が下向きから上向きに反転しつつあるのに注意したいが、それも将来的に下落に向かうための踊り場だと考えられる。79.00～81.50円(岡田)



巻末の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

カナダ/円 6/6～10の主な推移



6/7 Tuesday	アジアから欧州、NY時間序盤にかけて各株式市場が堅調に推移した事を受けてカナダ/円も堅調に推移した。しかしNY時間終盤に米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長が足元の景気減速に触れつつも、量的緩和第2弾終了後の追加緩和(QE3)には言及しなかった事からNYダウ平均株価が下げに転じると、カナダ/円も82円を割り込んで下落した。(①)
6/8 Wednesday	仲値公示直後に仕掛け的なドル売り・円買いが入ると、ドル/円がストップロス巻き込んで79円台に急落。日経平均株価が下げ幅を拡大した事もあってカナダ/円は1円近く下落した。その後も欧州株や原油先物価格の下落を背景にカナダ/円は続落となり81.20円の安値を付けた。(②)しかしその後、石油輸出国機構(OPEC)が、原油の増産を見送った事を受けて原油先物価格が急騰すると、カナダ/円は81.78円まで反発した。
6/9 Thursday	米4月貿易収支が予想を下回る赤字額にとどまり、輸出額が過去最高を記録した事を好感してNYダウ平均株価が7日ぶりに反発。原油先物価格も堅調に推移した事を受けてカナダ/円はこの日の高値となる82.52円まで上昇した。(③)
6/10 Friday	加5月雇用統計で、雇用ネット変化が予想(2.00万人増)を上回る2.23万人増となり、失業率が予想(7.6%)よりも改善して7.4%となった。これを好感して、カナダ/円は82.48円まで上昇したものの、その後、サウジアラビアによる原油増産報道を受けて、原油先物相場が大幅に下落した事や、NYダウ平均株価が約3カ月ぶりに12000ドルの大口を割り込んで下落した事を受けて、リスク回避の動きが強まると81.85円まで下落した。(④)

上昇要因(カナダドル高・円安)

- ・世界経済回復期待の高まり
→リスクを取ることに積極性が増す
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測
- ・原油など資源価格の上昇
- ・日銀の追加金融緩和への期待
- ・(本邦及びG7協調による)円売り介入

下落要因(カナダドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
- 日米(主要国)株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測の後退
- ・中国など新興国の引き締め観測

巻末の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

今週の見通し

先週のカナダ/円相場は81.20円～82.59円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは約0.1%の小幅な下落(カナダドル安・円高)となった。先週のカナダ/円の値幅は1.39円と非常に狭く、方向感に乏しい展開となったが、この間、NYダウ平均株価が約1.6%の下落、原油先物価格が約1.5%の下落となった割には、カナダ/円の下落は小幅なものであったとも言える。先週には、同じ資源国通貨である豪ドルは対円で約1.8%下落している点からも、カナダ/円が底堅く推移した事が伺える。先週のカナダ/円の下げ渋りの背景としては、5月31日のカナダ中銀(BOC)声明で、近い将来の利上げを示唆した事や、先週10日に発表された加5月雇用統計が予想以上に好内容であった事などが挙げられる。今週のカナダ/円は、主要国株価や原油価格の動向を睨んでの取引が続くと見られるが、先週安値の81.20円をキープできるようなら、反発に向かう機運が高まる事になるだろう。(神田)

(予想レンジ:81.00～84.00円)

テクニカル分析



●カナダ/円 6/10週足引値:81.95円(日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

カナダ/円は68.35円(2009/6/10安値)から94.45円(2010/04/26高値)へと26.10円上昇したが、その後は安値78.40円(2010/08/24)⇒高値85.58円(3/10)⇒安値77.60円(3/17)⇒高値89.49円(4/08)となっている。取引値は200日線(82.97円、6/10)が上値を抑え、20日線(83.04円、6/10)や60日線(84.60円、6/10)を下回っている。ボリンジャーバンドは6/10現在、上限84.79～下限81.28円であり、先週は取引値がバンド下限を押し下げる動きも見られた。現在のカナダ/円の下落がトレンドと思わせるものがある。4/08に直近高値の89.49円を見てからゆるやかに下落の流れとなって進行している。先週は60日線がしっかり上値抵抗線となった。下値はボリンジャーバンドの下限を割り込みつつある。このパターンは上値が重い中、ややもすると下値方向への力がかかりやすいと見られる。今後、本格的な81円や80円割れを警戒するところだが、ゆっくりなのか、速いのか気がになるところ。上値ポイントは①83.04円(20日線、6/10段階)、②84.50円(5/31高値)、③84.60円(60日線、6/10段階)であり、下値ポイントは①81.00円(キリのいいところ)、②80.00円である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (6/13~15)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
6/13 (月)	—		シドニー休場(女王誕生日)、チューリッヒ休場(聖霊降臨節の振替休日)		
	8:50		(日) 4月機械受注 [前月比]	+2.9%	+2.3%
			(日) 4月機械受注 [前年比]	+6.8%	+5.0%
6/14 (火)	未定	◎	(日) 日銀金融政策決定会合	—	—
	11:00	○	(中) 5月生産者物価指数 [前年比]	+6.8%	+6.5%
	11:00	○	(中) 5月消費者物価指数 [前年比]	+5.3%	+5.5%
	11:00	○	(中) 5月小売売上高 [前年比]	+17.1%	+17.0%
	11:00	○	(中) 5月鉱工業生産 [前年比]	+13.4%	+16.9%
	13:30		(日) 4月鉱工業生産・確報 [前月比]	+1.0%	—
			(日) 4月鉱工業生産・確報 [前年比]	-14.0%	—
	17:30	◎	(英) 5月消費者物価指数 [前月比]	+1.0%	+0.2%
		◎	(英) 5月消費者物価指数 [前年比]	+4.5%	+4.4%
	17:30	○	(英) 5月小売物価指数 [前月比]	+0.8%	+0.4%
	21:30	○	(米) 5月生産者物価指数 [前月比]	+0.8%	±0.0%
		○	(米) 5月生産者物価指数 [コア:前月比]	+0.3%	+0.2%
		○	(米) 5月生産者物価指数 [前年比]	+6.8%	+6.6%
		○	(米) 5月生産者物価指数 [コア:前年比]	+2.1%	+2.1%
	21:30	◎	(米) 5月小売売上高 [前月比]	+0.5%	-0.4%
		◎	(米) 5月小売売上高 [前月比:除自動車]	+0.6%	+0.3%
	21:30		(加) 第1四半期設備稼働率	76.4%	—
	23:00		(米) 4月企業在庫 [前月比]	+1.1%	+0.8%
6/15 (水)	14:00		金融経済月報・基本的見解(日銀)	—	—
	17:30	◎	(英) 5月失業保険申請件数	+1.24万件	+0.52万件
	17:30	◎	(英) 5月失業率	4.6%	4.6%
	18:00		(ユーロ圏) 4月鉱工業生産・季調済 [前月比]	±0.0%	+0.1%
	20:00		(南ア) 4月実質小売売上高 [前年比]	+5.1%	+4.9%
	21:30	◎	(米) 5月消費者物価指数 [前月比]	+0.4%	+0.1%
		◎	(米) 5月消費者物価指数 [コア:前月比]	+0.2%	+0.2%
		◎	(米) 5月消費者物価指数 [前年比]	+3.2%	+3.3%
		◎	(米) 5月消費者物価指数 [コア:前年比]	+1.3%	+1.4%
	21:30	○	(米) 6月ニューヨーク連銀製造業景気指数	11.88	13.50
	22:00	○	(米) 4月対米証券投資 [ネットフロー合計]	+1160億USD	—
		○	(米) 4月対米証券投資 [ネット長期フロー]	+240億USD	—
	22:15	○	(米) 5月鉱工業生産 [前月比]	±0.0%	+0.3%
	22:15		(米) 5月設備稼働率	76.9%	77.1%
	23:00		(米) 6月NAHB住宅市場指数	16	16

経済指標カレンダー (6/16~17)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
6/16			ヨハネスブルグ休場(青年の日)		
(木)	07:45		(NZ) 第1四半期製造業売上高 [前期比]	+3.1%	—
	16:15		(スイス) 第1四半期鉱工業生産 [前年比]	+6.1%	+5.8%
	16:30	○	(スイス) スイス中銀政策金利発表	0.25%	—
	17:30	○	(英) 5月小売売上高指数 [前月比]	+1.2%	—
		○	(英) 5月小売売上高指数 [前年比]	+2.7%	—
	18:00		(ユーロ圏) 5月消費者物価指数・確報 [前年比]	+2.7%	+2.7%
	21:30	◎	(米) 6/11までの週の新規失業保険申請件数	42.7万件	—
	21:30	◎	(米) 5月住宅着工件数	52.3万件	54.0万件
	21:30		(米) 5月建設許可件数	56.3万件	55.3万件
	21:30		(米) 第1四半期経常収支	-1133億USD	-1260億USD
	23:00	◎	(米) 6月フィラデルフィア連銀景況指数	3.9	7.0
6/17	08:50		(日) 日銀金融政策決定会合議事要旨 (5月19・20日分)	—	—
(金)	18:00		(ユーロ圏) 4月建設支出 [前月比]	-0.3%	—
	18:00		(ユーロ圏) 4月貿易収支	+28億EUR	-21億EUR
	21:30		(加) 4月卸売売上高 [前月比]	+0.1%	—
	22:55	◎	(米) 6月ミンガン大消費者信頼感指数・速報値	74.3	74.5
	23:00		(米) 5月景気先行指数 [前月比]	-0.3%	+0.2%

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com